

明政クラブ

地域間の医療格差

問 南部地区では医療機関が少なく、病床や医師等も不足しているが、是正に向けた取り組みについて伺いたい。

答 医療資源の格差の課題への取り組みとして、平成25年度から、救急患者を受け入れている南部地区の拠点病院に対し、輪番病院としての補助に加え、輪番日以外の救急医療に対する運営費の一部を補助している。また、平成29年度からは、医療資源が限られた地域の住民が、より質の高い医療を受けることができるよう、当該地域の病院が医療機器の更新・新設を行う場合に財政面での支援を行うことで、医療環境の充実を図っている。

今後とも、地域の拠点病院に対する補助金など、財政面の支援を継続し、現行の医療体制の維持に努めたい。

長崎市内のインターネット環境整備

問 長崎市内において、光回線等の高速通信が提供されていない地域とその解消策について伺いたい。

答 光回線の敷設には多額の経費を要するため、通信事業者の採算性の問題から、式見、外海及び高島地区の全域、福田、琴海、土井首、茂木、

野母崎及び三和地区のそれぞれ一部で整備が進んでいない。

インターネットは、地理的・時間的制約を受けずにコミュニケーションや仕事などができることから、周辺地域における重要なインフラであるが、環境整備は事業者が行うことが望ましいと考えている。民間での整備が進むよう、不採算地域で光インターネットサービスを提供する事業者を対象とした財政支援措置について、引き続き、県や国に要望していく。

消防団員の待遇改善

問 部長と班長の退職報償金が同額であるが、職責に応じた見直しができな

答 消防団員の退職報償金は、5年以上勤務して退職した団員の階級及び勤務年数に応じて支給している。部長と班長の支給額は政令により同額となっているが、

職責に応じた額とする考え方もあることから、国等に対し、要望していきたい。



退団後の福利厚生については、日本消防協会が行う消防個人年金制度があり、分団長研修などにおいて周知を行っている。公的資金を導入した福利厚生制度については、今後、国及び他都市の動向を注視していきたい。

公明党

まちなこ不妊化推進事業

問 事業のこれまでの実績と今後の取り組みについて伺いたい。

答 長崎市では平成26年度から猫の殺処分数の削減とふん尿などによる生活環境被害の軽減を図るため、野良猫の不妊化手術費用を助成している。

事業の実績としては、平成29年度までに計889頭の不妊化手術を実施しており、平成30年度においても250頭の手術を予定している。この結果、平成25年度において1921頭であった殺処分数が平成29年度には1001頭まで減少しており、平成30年度においても前年度を下回る水準で推移していることから、平成25年度の殺処分数を平成30年度までに半減させるという目標を達成できるものと考えている。

今後も殺処分ゼロを目指して、関係団体と協議を行い、事業を継続していきたい。

バリアフリー観光の推進

問 取り組みをさらに推進させるため、世界に向け「バリアフリー観光のまち長崎宣言」を行ってはどうか。

答 長崎市における取り組みについては、公式観光サイト「あっ！とながさき」において、バリアフリー観光の情報を発信するとともに、障害者に対する理解の促進や接遇、車椅子利用者の介助などに関する研修会を開催し、来訪者へのおもてなしの向上に取り組んでいる。

しかしながら、受け入れ体制の強化など、先進都市と比べてまだ課題が多く、「バリアフリー観光のまち長崎宣言」については、まずは市民全体の意識向上に努め、機運を高めていくことが重要と考えている。

今後、誰にもやさしい観光地づくりの実現のため、民間団体と連携し、バリアフリー観光の推進に努めていく。



死亡に関する手続の負担軽減

問 死亡に伴う手続のワンストップ窓口を設置する考えはないか。

答 死亡に関しては、福祉や税、医療・